

## 腎臓内科

### (スタッフ)

部長 : 福長 直也 (5月から)  
 : 縄田 智子 (4月まで)  
 副部長 : 福長 直也 (4月中)  
 医師 : 末永 裕子 (4月から)  
 嘱託医 : 末永 裕子 (3月まで)  
 : 古寺 紀博 (4月から)  
 専攻医 : 幸 奈菜 (3月まで)

腎臓内科は2016年7月に膠原病・リウマチ内科と分離される形で設置され、2018年4月よりスタッフ3人体制となっております。2022年5月から前任の縄田智子医師から福長直也が部長を引き継がせて頂きました。診療、回診・カンファレンス、研修医指導はこれまでと同じように膠原病・リウマチ内科と合同で行っています。

### (診療実績)

腎臓内科では内科的腎疾患の入院および外来診療と並行して透析室業務を担当しています。透析室での診療については別稿(P.80)に記載します。

外来は、2020年8月より外来棟1階にて診療を行っております。急性腎障害および慢性腎臓病の診療を主に行っており、すべての曜日で新患および再診に対応しております。慢性腎臓病の診療においてはかかりつけ医の先生方との診療連携を基本とし、慢性腎臓病の進展抑制を図るために疾患の総合的評価、薬剤調整、栄養指導などを行っています。

入院は、7階東病棟において外来と同様に急性腎障害および慢性腎臓病の診療を主に行っております。腎生検や免疫抑制治療、透析導入、教育入院などを中心に行っております。

外来および入院診療はともに医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務の全体でのチーム医療をモットーに診療を行っております。

表 入院患者内訳

(単位：件)

入院疾患分類	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
慢性腎臓病／慢性腎不全	80	79	80	96	68
急性腎障害	7	3	8	16	10
ネフローゼ症候群	22	32	24	23	37
IgA腎症／その他の糸球体疾患	16	17	11	23	20
急速進行性糸球体腎炎	1	12	11	11	3
腎尿細管間質性腎疾患	3	12	11	10	4
その他	20	28	30	28	57
入院件数合計	149	183	175	207	199
エコーガイド下腎生検件数	19	24	14	30	28
透析導入件数	53	46	43	48	54

### (今後の方向性)

大分県は人口あたりの透析患者数が全国でも5番目に多く(2021年末)、腎疾患に対して早期から適切に治療を行い進展予防に努める必要があります。そのためには、かかりつけ医の先生方や、院内の各診療科との円滑な連携が不可欠と考えており、各方面とより積極的に連携していきたいと考えております。今後も大分県における新規透析導入数の減少と腎疾患患者のQOL向上を目指して、質の高い診療を目標に努力してまいります。

(文責：福長直也)